


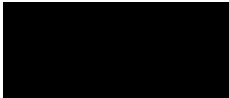

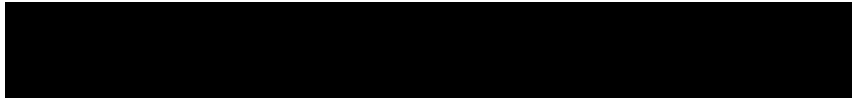
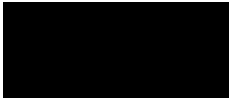


## 盲点の体験：小脳の自動思考を体験するための補助実験

- 1 このページを印刷してください。
- 2 右目を閉じ、左目だけで上段の  を見ながら、目から紙までの距離を調節すると、  が消えて見えなくなる位置があります。このとき、  は左目の盲点に入っています。
- 3 同様に2段目の  を右目を閉じ左目だけで見ると、上の図の  が消えたのと同じ距離で、黒い線の「切り目：空白部分」が消えます。  
ところが、このとき「切り目：空白部分」が消えた後は黒の線で補われており黒い線は途切れていないように見えます。見えていない場所「盲点」の視覚情報は実際には欠損している（目を通して脳には伝わっていないのです）が、脳の自動類推によって欠損は意識されない（これまでの体験から自然であるように補われる）のです。このとき脳は無意識のうちに（自動的に）まわりの視覚情報と矛盾しないような類推をします。

.....  
視覚イメージの自動操作であるこの機能は生命維持のために発達したのですが、今では自動思考にも使われているのです。思考そのものが視覚イメージの操作であることを考えるとです。肉体的な反射（視覚イメージの後追い現象）と小脳の自動思考（視覚イメージでの移動・変形・連想・比較 類推）は視覚イメージでつながるのです。



これ以外に、脳は色も作り出していますので色のない物の上にも色を見る事なども出来ます。「マッカロー効果」で調べると検証実験もご覧になれます。

脳は全ての見えるものを再現できるのです。本当は脳が視覚イメージ再現していることを「見える」といっているのです。ですから、再現していない視覚イメージは保存されるだけで見えないのです。有名な「サブリミナル効果」の理由でもあります。

大事なことは「全てを再現できるのに目を閉じると色が見えなくなり細部も分からなくなる」ということです。これが、脳には必要なのです。思考に色は必要ないからです。思考に細部は必要ないからです。思考に必要でない情報は再現しないのが基本なのです。情報が少ないと扱い（操作）が容易になり速くなります。エネルギーも少なく済みます。また、目からの情報入力を使えばいつでも色も細部も必要なときに再現できるので、思考のための基本情報にはならないのです。